

上越の国有林における取組

—令和7年度—

上越森林管理署



■ 安心・安全の確保に向けた治山対策

【新潟県中越大震災の復旧対策（民有林直轄地すべり防止事業） 見学会】

（令和7年10月20日開催）

開催場所：新潟県長岡市濁沢町ほか

参加者：新潟県（12名）、市町村（7名）、警察・消防（4名）、
国有林（27名）

上越・中越森林管理署は、令和7年10月20日（月）、新潟県中越大震災の復旧対策見学会を開催し、長岡、上越、糸魚川の各地域振興局、警察署、消防本部、長岡市、上越市、妙高市、糸魚川市、十日町市及び関東森林管理局、県内の森林管理署あわせて16機関、50名が参加しました。

中越大震災から20余年、直轄事業終了から10年の節目となる年に、復旧・復興状況を確認しながら、関係機関と当時のエピソードや調整状況を振り返り、今後の大規模災害発生時の対応業務に繋げていく取組です。

参加した市職員から、「関係機関が一丸となり、早期の復旧に向け尽力されていたことを知り、有事の際には組織の枠を超えた連携調整が必要だと感じた」などの感想がありました。

今後、大規模災害がいつどこで発生するか予測は難しいですが、災害発生時には、関係する機関と組織の枠を超えて円滑な連携調整が行えるよう、日頃から会議などを通じて組織同士が顔の見える関係を構築しておくことが大切だと改めて感じたところです。



開会式の様子



現場での説明（貫（つなぎ）地区）

【新潟焼山の国有林における防災対策について（現地検討会）】

（令和7年10月31日開催）

開催場所：新潟県糸魚川市大字大平字カラサワ国有林

参加者：新潟県（2名）、市町村（4名）、警察・消防等（10名）、
国有林（7名）

上越森林管理署は、令和7年10月31日（金）に新潟焼山の国有林における防災対策についての検討会を開催し、糸魚川地域振興局、糸魚川警察署、糸魚川市、糸魚川市消防本部、新潟地方気象台、関東森林管理局の23名が参加しました。

新潟焼山に源を発する土石流の監視と下流域での被害の未然防止を目的とする土石流監視施設のシステム再構築に伴い、現在の施設の状況と新たなシステムについて意見交換を行い、地域における防災対策の連携と情報共有を図りました。

現在の施設及び今後の施設の運用方法を説明、令和8年度試験運用を経て、令和9年度から本格運用する計画であることを周知するとともに、各機関との情報の共有と伝達網の調整を図ることとしました。

参加者から、「土石流監視体制を見学できたのは非常に有意義であり、関係機関が連携して防災に取り組むことが重要」などの話がありました。



開会式の様子



現地での説明



土石流センサー（転倒式）の見学

■ 地域への貢献

【1. イベントでの木工教室】

令和7年度も高田城址公園において、快晴のもと「第27回上越市みどりのフェスティバル」が開催されました。

当署のブースは、スギの間伐材を利用した「森のかけらストラップ作り」で、参加した子供たちは、思い思いの作品作りを通じて、楽しく木にふれあっていました。

また、各ブースごとに出題するクイズラリーでは、スギの輪切りを展示し「この木はなんの木かな？」を出題しました。

ゴールデンウィーク初日で、汗ばむ位の陽気のなか、来場者も多かったため、午前中にほぼすべての時間帯の予約が埋まる大盛況でした。

このような取組を通じ、市民の地域の森林・林業への関心を高めています。



ストラップ作り



クイズラリー

【2. 森林環境教育】

森林の持続可能な経営に向けた取組と森林の持つ様々な機能について学習を行い、将来を担う子供たちへの森林・林業の必要性・重要性に関する森林環境・森林教室への支援を行っています。

令和7年度は、小学校へ出向いての森林教室（座学）3回（5月、6月、9月）と、枝打ち等の体験林業2回（6月、9月）を行いました。

座学での林業の説明の中で、児童から積極的な発言があったり、クイズや質問には多数の反応があるなど一方通行とならずに双方向での講義を行うことができました。

林業体験では、皆が枝打ち、丸太切りとともに真剣に取り組んでおり、鋸の使用経験のある児童がほかの児童を教えるなどの行動も見られました。



森林教室（座学）



林業体験（枝打ち）